

浜郷小学校防災学習『避難所運営ゲーム』

伊勢新聞(2月29日)中・南勢板に掲載されました



避難者の受け入れや物資の配置など避難所の運営を考える児童ら＝伊勢市黒瀬町の浜郷小学校で

児童らが防災学習

伊勢の浜郷小 避難所運営ゲームで

【伊勢】大地震など大規模災害時の避難所の運営を学ぶ防災学習が二十七日、伊勢市の浜郷小学校であった。児童らが、避難所運営を疑似体験するゲーム「HUG」に取り組み、避難者の受け入れや避難所での課題について考えた。

防災意識を高め、災害時の対応力を育もうと、住民

組織「浜郷地区まちづくり協議会」の協力で毎年六年生が取り組んでいる。

HUGは、災害直後に避難所へ来る人や出来事などに対応するかを考えるゲーム。避難所の平面図上に、年齢や持病など避難者の事情が書かれたカードを振り分けたり、物資の置き場所などを決めて運営を学ぶ。

大地震発生後、学校に避難所が開設されたと想定し、六年生五十六人が八班

に分かれて取り組んだ。校舎や体育館の見取り図を囲み、「車いす使用」「日本語が話せない」など避難者の状況に合わせて部屋割りを考え、ペットの対応や物資置き場などを話し合いながら決めていった。

体験後、児童らは「実際はパニックになると思うが、冷静に行動したい」「地震は必ず来る。経験を生かし地域の人と自分たちの命を守りたい」などと話した。